

1. 総括についての評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減され、多くの取り組みが以前のように行われた1年間であった。その中で、子ども達は、共に学び合い、支え合う喜びを感じとりながら、学ぶ楽しさを実感していった。また、教員も積極的に研修・修養に努め、自らの指導力向上に努めた。による行事や活動が子供たちの教育活動に制限を設けなければならない1年間であった。全国学力調査・大阪市学力経年調査では、大阪市平均や全国平均を超える学年教科が出るのが通例となり、児童の学力向上が一過性ではないことが証明できた。また、全国体力運動能力調査においても、男女とも毎年全国平均を超え、学校教育と地域スポーツの相乗効果であることを感じさせられた。

目標数値に及ばない目標もあるが、当初から設定値が高く、見当も必要である。以前に比べ、子ども達が心豊かに育っている点を鑑みると、自己評価は妥当であると考えます。

2. 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

全市共通目標（小・中学校）

①令和5年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。 **R4 82.5%**

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R4 0.02

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 **R4 16.7%**

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校の年度目標

④令和5年度の校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上を維持する。 **R4 93.5%**

（基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現）

⑤令和5年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和4年度より3%増加させる。

R4 39.2%

（基本的な方向2 豊かな心の育成） **R4 0.02**

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

① **R5 : 84.3%** ○

② 1名登校できるようになった。 **R5 : 0.018%** ○

③ 改善の割合は、9人中1名。 **R5 : 11.1%** ▲

- ④R5 : 95% ○
- ⑤R5 : 42.5% ○

年度目標 : 未来を切り拓く学力・体力の向上

全市共通目標 (小・中学校)

①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 **R4 36%**

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

R4 国語3年0.97 4年0.99 5年0.95 算数3年0.98 4年0.86 5年0.98

③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 **R4 82.8%**

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

④小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上にする。 **R4 94%**

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

⑤小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

(施策5 健やかな体の育成)

R4 73.3%

学校の年度目標

⑥令和5年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を61%以上にする。 **R4 61%**

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

①R5 : 36.6% 前年度より向上したが、目標値には届かなかった。▲

②5年算数・6年算数が向上 5年国語・6年国語が向上 ○
4年算数のみ0.03p下がった

③R5 : 84% ○

④R5 : 88.3% ○

⑤R5 : 70.3% ▲

⑥R5 : 56% ▲

年度目標：学びを支える教育環境の充実

全市共通目標（小・中学校）

- ①令和5年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。 **R4 93%**
(基本的な方向5 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)
- ②ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

R4 夏季3日 冬季3日

学校の年度目標

- ③令和5年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 **R4 85%** (基本的な方向8 生涯学習の支援)
- ④令和5年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 **R4 91%**
(基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)
- ⑤令和5年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和4年度より1ポイント増加させる。

R4 88%

(基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)

- ①R5 : 94% ○
②R5 : 夏季3日 冬季3日 ○
③R5 : 80% ▲
④R5 : 94% ○
⑤R5 : 93% ○

4. 今後の学校園の運営についての意見

- 今年度は6年生の調査が格段に向上している。学年で習熟度別学習に取り組むことで、学力低位層の児童が、10から20ポイントほど上がっている。アフターコロナとして、以前どおり、放課後学習等、児童に学習をやりきらせることが、学びの定着につながっていると考えられる。
- ここ数年、体力運動能力調査では高得点が続き、全国平均をはるかに超えている。地域スポーツクラブの影響も高く、今後も学校と地域・PTA等の取り組みのを広めながら、運動への意欲を高めていくことが必要。
- 目標数値に「最も高い」という結果を入れていたが、「高い」と答えている児童が反映されていないことがある。肯定的に考えている児童全般で捉え、学校運営を行っていくことも大切である。